

Anyの意味

——英英辞書から any の意味を探る——

田 中 実*

Meaning of Any: Exploring the Meaning of Any through Mono-Lingual English Dictionaries

Minoru TANAKA

要 旨

Anyの意味記述に関して英英辞書は、英和辞書とはかなり違う。全体的な情報量としては不十分ではあるが、母語話者の直感をよりよく反映したものであるとすると、英和辞典などにはない any の語の側面の真実を示してくれるように思われる。本論文で英英辞書の精査から得られたことからは、まず学習者用英語辞書にはない「相当、かなり」を意味する any、そして any の意味特徴を示す重要なキーとなるフレーズ (no matter which/what, how much or how little, how many or what, regardless of quantity or number, in whatever quantity or number, the smallest quantity or number of) である。「肯定、条件の any の類似性」、「肯定、否定の any の類似性」が示された。田中(2007)で言及した疑問と条件の any の類似性と合わせると、肯定・非肯定の any 全体に共通した意味を示唆している。その一方で、肯定文の any に様々な意味があること、「any N+関係詞節」についても考察した。最後に「弱い意味、強い意味の any」、「弱い意味の any と冠詞 a、ゼロ冠詞の関係」、Sahlin (1979) の Any I, II, III との関係を考察し、それを図式化してまとめた。

キーワード：any, 英英, 意味, 弱い, 強い

*准教授 英語学

1. 本研究の目的と背景

田中 (2007) において英英辞書の、特に母語話者用英英辞書での any の意味記述の不十分さについて述べた。不十分さというのは、実は量的にというだけでなくその整合性についてもある。だが、英英辞書における any の意味記述が母語話者の直感を反映しているとするれば、それぞれの辞書は any という単語のある側面の真実を捉えているのではないと思われる。そこで、英英辞書における any の意味記述を精細に考察してみることで、その真の姿に少しでもせまりたいと考える。特に英和辞書等には記載されていない any の側面があると思われる。あるいはすでに伝統的に解説されていることがらを違った角度から確認できるかもしれない。そして、こうした考察が any の統一的なわかりやすい説明に寄与するものと思われる。というのは、any は日常的に使われる言葉でとくに説明を必要としない語だからである。

2. Any の意味記述に関わる問題点

田中 (2007), Tanaka (2008) にもとづいて、any の意味記述に関する問題点を概観しておく。

2.1 Any の意味を捉えることの困難さ (田中, 2007)

2.1.1 英語辞書, 学術研究におけるこれまでの any 捉え方

英和辞典に共通する特徴

統語的な観点から、疑問文、条件節、否定文、肯定文での使用を区別して意味、用例を記載している。もちろん、英和辞典がすべて同じ記述の仕方ということはない。だが、こうした英和辞典からは次のような傾向が観察される。(A) Polarity 的な記述、つまり any は非肯定文 (non-affirmative sentences 疑問文、条件節、否定文) で使われ、肯定文では some を用いる。そして、some が非肯定文で使用される場合には、肯定への期待、予期があるという但し書きがつく¹⁾。(B) 肯定文で使われる any。(C) any の修飾する可算名詞の単数、複数の違いを提示。

母語話者用英英辞典の特徴

非肯定文 (疑問文、条件節、否定文)、肯定文での any の使用、可算単数・複数名詞における意味の違い等については、その分類がまったく不十分であり、その掲載もしていたりしていなかったりである。American Heritage, American Heritage New College, Webster's では、極め

て不十分な意味記載の仕方である。ネイティブにとっての辞書なので、anyのようなあまりに基本的な語について参照するようなことはないので、これでも別に問題はないものと思われる。英和辞書にはない「相当の、かなりの」という意味の記載があるのが特徴的である。

学者用英英辞典の特徴

母語話者用英英辞典よりは記述の仕方がしっかりして親切になっている。anyの意味の分類、提示の仕方は英和辞典のそれに近くなっている。とはいっても、英和辞典に比べると、説明は包括的、体系的ではない。これで、anyついて学習するのは難しいのではないと思われる。ただし、英英辞典のこの項目を読んで理解できるだけの英語力があれば、anyについての基本的な知識は習得しているのではないと思われる。つまり、母語話者にとってanyの項目は必要がないように、この項目を読める英語学習者にとっても不必要かもしれない²。

Anyの学術研究の特徴

大きく分けると二つの特徴がある。一つは、Hirtle (1988) に代表されるように、anyの意味をいささか単純に「数量の問題」として捉えている。もう一つは、anyの意味をその意味特徴 (semantic feature) から捉えようとするもの。後者には、Sahlin (1979)、池内 (1985)、Hirtle (1988)、川瀬 (1989) などがあつた。Sahlin (1979) では、anyの多くの意味特徴が提案された。

2.1.2 Anyの意味の捉えることの難しさ

「『訳』による説明」の首尾一貫性の欠如。例えば、「～でも」という訳語を条件における意味として特徴づけても、常に条件節の中で日本語の「～でも」となるわけではない。「何か」と訳せる場合もある。しかも、「～でも」と「何か」では意味が明らかに違う。

数量なのか種類 (どんな) なのか? Anyが複数名詞を修飾する場合、「数」の意識させるので「数量の不特定性」、単数の場合は「種類の不特定性」を表すと説明されることがある。だが、複数でも種類を表す。

SahlinのAny I, Any II, Any IIIの区別、とくに実際の文での区別が難しい。Any Iは、Any IIと区別する重要な特徴として“lightly quantitative”がある。Any IIの中の意味分類に“Non-contrastive use”というのがあり、日本語では「何か～」に近い。両者とも意味が弱く、こうした説明では区別がつきにくい。Any IIの例文としては、“Yet the fact remains that such institutions do set men at odds with their fellows. Is there *any way out* of the predicament?”

(Sahlin 1979: 97) だが、これと Any I の用法とはあまりに微妙である。“lightly quantitative” と “Non-contrastive use” では違いがわかりにくいし、実際の例文ではもっとわからない。Any III は、主に肯定文に使用されるという意味ではわかりやすい。だが、その意味特徴が質、数量の両者において任意、不特定性を示すので、Any II との区別が難しくなる。

Sahlin の “Contrastive use” の有用性。Sahlin (1979) のあげる “Contrastive use” とは、文脈的に拘束されていて、具体的には any が付く名詞はすぐ前に言及されているという状況である。だが、これを any の意味と考えるべきかどうかは判断が難しい。あまりに文脈的な意味だからである。

最後に any の意味の全体像（全体の意味構造）をつかむ難しさがある。Any の意味の記述ではっきりしない点は、上記以外にもいくつかある。例えば、any が関係詞節の先行詞を修飾する場合の問題、英和辞典が「種類」と呼ぶものは、質 (quality) とは違うのか、任意性とはどう違うのかという問題、stress (強勢) の問題などである。「any が関係詞節の先行詞を修飾する場合」については、LDCE の “as much as possible” (例: *They're going to need any help they can get.*) にあたると思われるが、例文 (46) Borrow any book that interests you. (あなたにとって興味ある本を借りなさい) (Super Anchor) にあるように、そのような意味になるとも限らない。質 (quality) と種類 (kind) は似て非なるもののように思えるし、集合の内「どれか」も「どれをとっても」も両者ともに任意と思える。だが、両者は明らかに違う。このように個々の領域でも any の意味を明快に捉え記述することはむずかしい。したがって、全体像を体系的に捉えようすることはほとんど不可能のように思われる。

2.2 Any は some の非肯定版ではない (Tanaka, 2008)

Tanaka (2008) は any は some の非肯定版ではないことを示した。Any は、可算単数名詞を修飾する。肯定の場合を特別用法だとしても (本論ではそうは考えないが)、非肯定の場合でも『any+可算単数名詞』は珍しくない。もちろん非肯定に現れる『any+可算単数名詞』は、『some+可算単数名詞 (ある～)』の非肯定版ではない。また、any が否定で使用される場合、not any N は全否定を表すわけで、some で示されるような不定の数量を表すわけではない。

疑問文、条件節で使用される『any+可算複数名詞』。この場合、一見 some の非肯定版として問題なさそうだが、そうとも言えない。Were there any students in the classroom? を例にとると、その答えとして複数学生がいる必要はなく、ひとりでもいい。一人もいない場合のみ、答えが “no” になる。また、If you have any pencils to spare, will you lend me one? (新英和中辞典) という例では、この場合貸してくれる鉛筆が 1 本あればよい、何も複数なくてもよい。

この2つの例から言えることは、ゼロではない最小の数・量があるかが問われていて、someの表す不定のある数量の概念とはかなり異なる。

3. 英英辞書での記述から見えてくる any の意味

Anyについては、母語話者用の辞書では詳細、正確な記述は必要ないと思われ、したがって実際かなり不十分なものである。だが、そのかなり不十分と思われるものを詳細にじっくり見ると、意外にも any の意味の真実が見えてくるように思われる。少なくとも、英和辞典では見えてこなかった any の意味の真実の側面が見えてくるように思われる。

今回参照した英英辞書は必ずしも最新版というわけではない。最新版のあるものは、それぞれ検討したが、今回参照したものと基本的で同じで、中には例文などが減らされているものもあった。したがって、今回参照した版で何ら支障はないと考えている。もちろん、版で内容が異なる場合や、最新版との違いがある場合は、両者を参照するか、あまりに簡潔すぎるものは参照対象からはずしている。

今回参照した英英辞書に最新版があるものもあるが、それらは今回参照のものとは基本的には同じものである。「基本的には同じものである」というのは、例えば COBUILD 2nd で “irrelevant” と使っていた表現を最新版 COBUILD 5th では “not important” と変えているというような場合である。なお、最新版 COBUILD 5th では COBUILD 2nd で挙げられていた例文の多くが削除されている。したがって、例文は多い方がいいと判断したので COBUILD 2nd を取り上げている。他の場合も同様である。なお、版によって内容が明らかに異なる場合は、両方を参照している。COBUILD, LDCE である。極めて最近出版されたものに Cambridge Advanced Learner’s Dictionary, 3rd, 2008 があるが、内容は下記のリストにある CIDE とまったく同一なので取り上げていない。したがって、本論文のために調査した英英辞書の選択に大きな見落としはなかったものと判断している。

今回参照した英英辞書の一覧を下記に挙げた。それとわかる形での縮約した名称をそれぞれ括弧に入れて示している。

Webster’s New World College Dictionary 4th Ed. (Webster’s)

The Concise Oxford Dictionary of Current English, 8th Ed. (COD 8th)

The Random House Dictionary of the English Language (RHD)

The American Heritage Dictionary of the English Language, 4th Ed. (AHD)

New College Edition The American Heritage Dictionary of the English Language (New College AHD)

Collins COBUILD English Dictionary, 2nd (COBUILD 2nd)

Collins COBUILD English Language Dictionary, 1987. (COBUILD 1987)

Longman Dictionary of Contemporary English, 3rd Ed. (LDCE 3rd)

Longman Dictionary of Contemporary English, 4th Ed. (LDCE 4th)

Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English, 6th Ed. (OALD 6th)

それとわかる場合には、上記とは違う名称で呼んでいることもある。例えば、The Random House Dictionary of the English Language を Random House と記している場合である。下記には英和辞典も引用しているが、それとわかる名称を使って縮約している。例えば、『フェイバリット英和辞典 第3版』は Favorite と記している。

3.1 英英辞書の特徴としてまず気づく点

Any に関して、英英辞書を見渡してまず気づく点が二つある。一つは、American Heritage に代表されるような “Exceeding normal limits, as in size or duration” という意味の記述である。これは田中 (2007) でも触れたが、どういうわけか英和辞書にこの意味の記述はない。American Heritage 以外では、次のように表現されている: “of considerable size or extent” (Webster’s), “a very large” (COD 8th)。さらに Sahlin (1979: 100) でも次のように記載されている: “any considerable”。これも田中 (2007) で触れたが、母語用英英辞書には記載されているが、英語学習者用英英辞書には記載がない。母語話者にとって特徴的な意味なのであろう。

二つ目は、any の意味の記載の際にして英英辞書に頻繁に使用されるフレーズについてである。次のフレーズが頻出する。no matter which / what (Webster’s, LDCE 3rd, CIDE), no matter how much or how little, how many or what kind (Webster’s, COD 8th)。さらには regardless of quantity or number (New College AHD), in whatever quantity or number, great or small (RHD), the smallest quantity or number of (New College AHD, Webster’s, COD 8th, RHD, LDCE 3rd, LDCE 4th, CIDE) などである。これらのフレーズは any の語の意味を特徴づけるものとして極めて重要と思われる。

3.2 肯定文の any と条件節の any の類似性

Random House では、any の肯定文の例と条件節の例が同じ定義項目の中に記されている。

Random House Dictionary

1 one, a, an, or some; one or more without specification or identification:

If you have *any* witness, produce them.

Pick out *any* six you like.

英和辞典であれば、この2つの any を同じ定義項目として扱うことはない。その立場からすれば、まったく違う用法の any の混在である。だが、ここで視点を変えると、そこに意味の類似性が見て取れる。条件節の例では、「証拠なるものがあればどんなものであっても」という意味で解釈できる。また、肯定文の方は、そのまま「好きなもの何でも6つ」と解釈される。まったく同じものとは言えないまでも、そこには共通した意味を見ることができる。

3.3 肯定文、否定文で使用される any の類似性

次の2つの any の定義は、Webster's と COD 8th に記載されているものである。

Webster's New World Dictionary 4th

1. one, no matter which, of more than two [*any* pupil may answer]
2. some, no matter how much or how little, how many, or what kind [*he can't tolerate any criticism*]
3. without limit [*entitled to any number of admissions*]
4. even one; the least amount or number of [*I haven't any dimes*]
5. every [*any child can do it*]
6. of considerable size or extent [*we won't be able to travel any distance before nightfall*]

COD 8th

1. (with *interrog.*, *neg.*, or conditional expressed or implied)
 - a one, no matter which, of several (*cannot find any answer*).
 - b some, no matter how much or many or of what sort (*if any books arrive; have you any sugar?*).
2. a minimal amount of (*hardly any difference*).

3. whichever is chosen (*any fool knows that*)
4. a. an appreciable or significant (*did not stay for any length of time*).
b. a very large (*has any amount of money*).

上記二つの辞書で、次の定義を比較してみる。

Webster's

1. one, no matter which, of more than two [*any pupil may answer*]

COD 8th

- 1 a. one, no matter which, of several (*cannot find any answer*)

Webster's も COD 8th も同じと言っていい定義を与えている。ところが、それぞれに与えられている例文は、Webster's [*any pupil may answer*], COD 8th "*cannot find any answer*" というように、一方では肯定文の例を挙げており、もう一方では否定文の例を挙げている。もちろん、この2つの定義、例文は英英辞書の間での整合性のないもの、矛盾したものの例として挙げることもできる。だがここでも見方を変えると、これらの例文の *any* には類似した意味も読み取れる。

上記の例を参考に肯定文と否定文の *any* を再考してみると、そこにはかなりの共通点がある。肯定文の *any* は「どんな周辺の、悪い例でも」ということである。否定文の *any* は、その周辺の、悪い例ですら否定するので全部否定となる。さらに数量について言えば、否定文の *any* は「どんな少ない数量も」否定するので、やはり全否定となる。

Sahlin (1979) においても、否定文における通常肯定で使用される *any* が見られることが触れられている (p.111, pp.128-130)。例としては、"*Anyone who does that isn't honest.*" (p.128)、さらに内在的否定文である "*John is ignorant of any poem(s).*" (p.129) などがあがっている。確かに、両者に類似性がある。

3.4 肯定文の *any* の種々の意味

American Heritage Dictionary には、2つの定義項目しか挙げておらず、例文は第1の定義項目に4つ、第2のものに1つ挙がっている。

American Heritage Dictionary

- 1 One, some, every, or all without specification:

Any の意味

- i Take *any* book you want.
 - ii Are there *any* messages for me?
 - iii *Any* child would love that.
 - iv Give me *any* food you don't want.
- 2 Exceeding normal limits, as in size or duration:
The patient cannot endure chemotherapy *for any length of time*.

まず注意を引くのは、2つの定義項目しかないこと、そして第1番目は「不定でいろいろな数量がある」ぐらいの意味しかないということである。しかも2つ目は、すでに触れたようにいささか特殊な意味である。

ここでは第1の定義項目に注目する。第1定義項目の4つのうち3つは肯定文におけるものである。残り1つは疑問文。明らかにバランスを欠いている。肯定文で使用される *some* に対して *any* は非肯定文で使用されるという一般的文法解釈からすると、単に偏りがあるだけでなく、その解釈と矛盾する。ほとんどの例文は肯定文のものであり、非肯定文は疑問の例が1つあるだけである。このような偏りは英語学習者からすると好ましくないのだが、やはり視点を変えると（一般的文法解釈に従う）通常の英和辞典にはない示唆を提供してくれるように思われる。つまり、肯定文での *any* の例がこれほど偏って挙げられているからには、同じ肯定文の *any* と言ってもいろいろ違いがあるのではないかと推測される。

AHD の *any* の3つの肯定文の用例の違い、その意味は次のように解釈されるであろう。

- (1) Any N = every, all となるような場合。AHD の例の (iii) に当たる。ただもちろん、*any* と every, all とでは意味合いは異なる。
- (2) Any N の N は単数なので「どれでも1つ」という意味になり、「すべて」という意味にはならない場合。AHD の例の (i) に当たる。
- (3) AHD の例の (iv)。「Any N+関係詞」³として取り上げられる例だと思われる。Any N の N は不可算名詞。「どんな食べ物でもいらないものはみんな」というような意味。量は感じられない。量の多少は関係ない。「関係詞によって限定されたすべて」ということである。

このように掲載されている any N の 3 つの例の意味合いはそれぞれ異なる。以下に、any が肯定文で使用される場合の記述があり、しかも例文が挙げられている場合の辞書を引用して検討してみる。ここでは英和辞書も対象とする。any が肯定文で使用される場合の記述がない、あるいは例文が挙げていない場合は検討からはずしている。

わかりやすさのため「Any N+関係詞節」のタイプとそうでないものとをわけて検討してみる。

まず「Any N+関係詞節」のタイプでないもの：

Webster's New World Dictionary 4th

1. one, no matter which, of more than two

any pupil may answer

5. every

any child can do it

COD 8th

3. whichever is chosen

any fool knows that

OALD 6th

2 used with singular countable nouns to refer to one of a number of things or people, when it does not matter which one

Any colour will do.

Any teacher will tell you that students learn at different rates.

LDCE 3rd

1 used to refer to each one or all members of a group, saying it does not matter which

You can obtain a valuation from *any* accredited insurance valuer.

before you sign *any* written agreement

These tiles are an ideal choice for *any* bathroom setting.

Any の意味

LDCE 4th

2 used to refer to a person or thing of a particular type when what you are saying is true of all people or things of that

Always check the details carefully before you sign any written agreement.

I can see you *any* time on Monday.

If I can help in *any* way, let me know.

Collins COBUILD English Dictionary, 2nd

3 You use *any* in positive statements when you are referring to someone or something of a particular kind that might exist, occur, or be involved in a situation, when their exact identity or nature is irrelevant.

Any actor will tell you that it is easier to perform than to be themselves...

I'm prepared to take *any* advice...

I would overcome *any* weakness, *any* despair, *any* fear.

Collins COBUILD English Dictionary, 1st

2 You use **any** in positive statements when you are referring to something or someone without saying exactly what, who, or which kind you mean, often because being exact is not possible or does not matter.

Any big tin container will do...

...things that *any* man might do under pressure...

...at twilight or *any* other time...

Cars can be rented at almost *any* U.S. airport...

He did not make more than one purchase at *any* one shop.

CIDE

not important which

determiner, pronoun one of or each of (something) or a particular amount of (something) but it is not important which

Any **minute/day/moment/time now** (=Very soon) there's going to be a massive quarrel between those two.

You should be able to catch a bus at midnight, but **in any case** (= whatever happened) you can always take a taxi home.

I don't want to go out tonight — there's nothing on at the cinema and **in any case** (= also and more importantly) it's far too cold.

There were a lot of computers at the exhibition, *any* (one) of which would have suited me perfectly.

Absolutely *any* food would be better than nothing at all.

E-Gate

④ 【ふつう単数の可算名詞につけて】【肯定文で】

① どの…でも, だれでも

You can take any box on the table. テーブルの上のどの箱を取ってもいい

You can take any three boxes on the table. テーブルの上の箱をどれでも3つ取っていい
(◆数詞と共に用いられることがある)

Any member can use these facilities. どのメンバーもこれらの施設を使うことができる

You can do it any way you like. 君は好きなようにそれをやればいいよ

Jane is smarter than any (other) student in her class. ジェーンはクラスの(ほかの)どの学生よりも賢い

語法

① 通例, 単数の可算名詞とともに用いるが, 不可算名詞や複数名詞と共に用いることもできる

② 3つ [3人] 以上のうちから任意に選択できる自由があるときに用いる。2つ [2人] の中から選択するときには *either* を用いる

⑤ 【しばしば軽蔑】どんな…でも (◆名詞が指すものが「どんなに不完全なものであっても」という意味合いがある)

Any child could understand that. どんな子どもでもそのことは理解できる

Any place would be better than here. どんな場所でもここよりはましだろう

Any reform is better than none. どんな改革でもやらないよりはましだ

I am ready to accept any proposal(s). どんな提案でも受け入れる用意がある

Favorite

3 **どんな…でも**, あらゆる, すべて (◆主に肯定文で用いる; 通例強勢を置いて [éni] と発音する)

Any suggestion is [Any suggestions are] welcome. どんな提案でも歓迎します

Genius

3 /éni/ [通例肯定文で; 強勢をおいて; 通例~+単数名詞] どれも, 何も, だれも; 少しも 《◆日本語では訳さないことが多い》

a どれでも, どんなもの [人] でも, 誰でも

Come and see me any day. いつでも遊びに来てください

You can have any cake on the table. テーブルのケーキはどれを食べてもいい 《◆ケーキが2つのときは *either*》

Any child could that. どんな子供でもそれはできよう 《◆仮定法と結びついて大変たやすいことだの意を表す》

Any bed is better than none. どんなベッドでもないよりはましだ

◇[語法]

(1) この意味では法助動詞を用いた文が多く, 具体的に何かをした文脈では *any* は不可:

× *He ate any cake(s) on the table.*

He ate all the cakes [every cake] on the table. (彼はテーブルのケーキをみんな食べてしまった)

(2) *any* の修飾語は *absolutely, just, almost* など:

Absolutely any food would be better than nothing. (絶対にどんな食べ物でも何もないよりはましだろう)

また *any* は *at all* で強調可:

Any car at all would be better than this. とにかくどんな車でもこれよりはましだろう

Lexis

2【肯定文で】**どんな…でも**, どれでも, だれでも

Any comments will be welcome. どんなご意見でも歓迎です

Any food is better than none. どんな食べ物でもないよりはましだ

語法 (1) *any* は *every* と異なり, 「どの…をとっても」という自由選択の意味を表す。し

たがって、You can read *any* book you like. は「好きな本ならどれでも（1冊）読んでよい」という意味になるが³、You can read *every* book you like. は「好きな本はすべて読んでよい」という意味になる⁴。

New Victory Anchor

3 [肯定文で] **どんな…でも**、どの…でも、だれでも（ふつう、単数名詞の前につける [éni] と強く発音する）

Any child knows that. どんな子でもそのことは知っている。

Dick is taller than *any* other boy in his class. = Dick is the tallest of the boys in his class.

N Proceed

2 [肯定文で] **どの…でも**、どんな…でも

Come and see me *any* day next week. 来週ならいつでもいいからいらっしやい

Any child could tell (you) the difference. どんな子どもだってその違いはわかりますよ

You can buy it at *any* department store. それはどこのデパートでも売っています

“Where shall we meet?” “*Any* place will do.” 「どこで会おうか」「どこでもいいよ」

He runs faster than *any* other student in his class. 彼はクラスのほかのどの生徒より足が速い

語法

(1) 数えられない名詞か数えられる名詞の単数を修飾するが³、複数形を修飾することもある

Choose *any* two books you want to read. どれでもいいから読みたい本を2冊選びなさい

Progressive

4 ((肯定文)) どんな…でも、いかような…でも、あらゆる、みんな、すべて

Any plan will do. どんな計画でもよい

Any time you say. いつでもよい

Any time is no time. ((ことわざ)) いつでもできると思うと結局できない

Readers

2 [肯定文中で、**単数形普通名詞**または不可算名詞に付け強調して用いる] どんな〈人、もの〉でも、だれでも、どれでも；いくらでも

Anyの意味

Any child can do it. どんな子供にでもできる

You can get it at any bookseller's. どの本屋でも買える

Any book will do. どんな本だってけっこう

Any help is better than no help. どんな援助だってないよりましだ

He is the best - known of any living novelist. 現存小説家中最も有名だ《文語では of (all) living novelists がよいとされる》

You are entitled to any number of admissions. 何回でも入場できる

★この意味で否定文に用いることもある

She is not just any girl. 普通の女の子とはちがう

They don't accept just any students. どんな学生でも入れるというわけではない

Super Anchor

2 [éni] [肯定文で] **どんな…でも**, だれでも (▶通例単数名詞に付けるが, 複数名詞に付くこともある)

Any child can tell. どんな子どもでもわかる

Come any time you like. いつでも好きなときにいらっしゃい

Take any two cards from the pack. トランプ札をどれでもよいから2枚取ってください

Wisdom

4 [éni] [主に肯定文, 時に否定文・疑問文・命令文で] (一般論・法則として) 《…から／…まで》 **どんな…でも**, だれでも, 何でも, どれでも, いつでも, どこでも «from/to»

((1) 通例 [C] 名詞単数形, 時に [U] 名詞, [C] 名詞複数形の前で用いる; (2) 主語の位置では強勢がないこともある; (3) この any に対応する some の用法はない)

Any dictionary [dictionaries] will do. どんな辞書でもいいです (= If it is a dictionary, it will do.) (複数形と用いる場合は種類だけでなく数量も自由であることを暗示)

You may come (at) any time. いつ来てもいいですよ

Before you buy any TV set, try out the remote. どんなテレビでも買う前にリモコンを試してみるとよい

You can enter any number from 0 to 100. 0 から 100 までのどんな数値も入力することができます

語法

(1) any と仮定的な文脈

「どれ1つ取っても」という自由選択的の意味を示し、必ずしもその存在を保証しない。そのため、この用法は通例仮定的な文脈で用いられ、事実を述べる肯定文では通例用いない。

Almost *any* object can be [×is] a toy for a baby. ほとんどのどんな物でも赤ん坊のおもちゃになる

(3) 否定文・疑問文

1や2の用法と区別が紛らわしいこともあるが、この用法の場合（話）ではanyに強勢がおかれ通例下降上昇調となる。また、否定文では部分否定となる。

I don't like *any* wine. (↘↗) 私はどのワインも好きなわけではない

(I don't like *any* wine. (↘) は「私はワインはどれも好きではない」の意)

(4) not any ... と any ... not 1の用法と同じく、“any+名... not”の語順では用いないが、後に置かれた修飾語に制限を受けてanyの不特定性が弱まっている場合は可能

Any politician who says such a thing can't be trusted. そんなことを言うような政治家は信用できない

(5) 最上級+of any ... “最上級+of any ...”は避けるべきとされるが、時に用いられる

The ostrich lays the largest eggs of (all) living birds [*any* living bird]. ダチョウは生きている鳥の中では最も大きな卵を産む

(6) 副詞 any としばしば用いられる副詞（句）には次のようなものがある：at all, almost, virtually, just, practically, absolutely.

新英和中辞典

1 [肯定文で、強調的に]

a [通例単数名詞の前に用いて] どんな…でも、どれでも…、だれ[何]でも…；任意の…。

Any person can do it. どんな人にでもできる。

Any tea will do. どんなお茶でもけっこうです。

Any help is better than no help. どんな助けだってないよりしました。

Tom is taller than *any* other boy in his class. トムはクラスのだれよりも背が高い《★【変換】同種の比較の時には any other... を用い、

Tom is the tallest of all the boys in his class. または No other boy in his class is as [so] tall as Tom. と書き換え可能》

Anyの意味

b [~ number [amount, length, quantity] of... で] どれほどの…でも, 無限の

He has *any* amount of money. 彼はお金はいくらでも持っている

d [[C] の名詞の複数形または [U] の名詞につけて] すべての

Save *any* foreign stamps for me. もし外国の切手が手に入ったらとっておいてくれよ

上記の肯定文の *any* の用例から次の3つの意味があるのがわかる：

(1) どちらかというとき *every*, *all* に近いもの, 結果として *every*, *all* と言えるもの

Any child can do it. (Webster's)

(2) どれでもいいがどれか1つ (Nが数詞を伴っていればどれにしるその数だけのもの, 単に複数ならどれにしるその複数のもの)

You *can* take *any* box on the table. (E-Gate)

You *can* take *any* three boxes on the table. (E-Gate)

Take *any* two cards from the pack. (Super Anchor)

You can take *any* boxes on the table⁵.

Any comments will be welcome. (Lexis)

(3) どんな悪いものでも, どんな良いものでも⁶

Any bed is better than none. (Genius)

I'm prepared to take *any* advice... (どんな厳しい〜) (COBUILD 2nd)

He has *any* amount of money. (新英和中辞典)

Any noise bothers my uncle. (Sahlin 1979: 22, 120)

(1) の意味について, *every* とか *all* の意味になるのは, 文脈からして結果としてそういう意味なると捉えるのが自然であろう。結果としてそういう意味なる場合でも, あくまで結果としてであってやはり意味合いは異なる。

以下は, 「*any* N+関係詞節」が特別に言及されることが多いので, どのような特別さがあるかを検討するために, 英英辞書, 英和辞書の記載を抜粋した。

Random House Dictionary

- 1 one, a, an, or some; one or more without specification or identification:

Pick out *any* six you like.

- 4 every; all:

Read *any* books you find on the subject. any + 可算複数名詞

OALD 6th

- 2 used with singular countable nouns to refer to one of a number of things or people, when it does not matter which one

Take *any* book you like.

LDCE 3rd

- 1 used to refer to each one or all members of a group, saying it does not matter which

Any child who attempts to escape is beaten.

Any plan chosen should take these factors into account.

LDCE 4th

- 2 used to refer to a person or thing of a particular type when what you are saying is true of all people or things of that type

Any child who breaks the rules will be punished.

- 3 as much as possible

They're going to need *any* help they can get.

(下線は筆者による)

CIDE

not important which *determiner, pronoun* one of or each of (something) or a particular amount of (something) but it is not important which

The offer was that you could have *any three items* of clothing you liked for £30.

(*informal*) On Sundays I just wear *any old thing* (= anything) that I happen to find lying around.

Any idiot (= Every person) with a basic knowledge of French should be able to book a hotel

room in Paris.

Any advice (= Whatever advice) that you can give me would be greatly appreciated.)

E-Gate

②【肯定文で】(数・量が) どれほどの…でも, できる限りの (◆関係詞節の先行詞につける)
(下線は筆者による)

I will accept *any help* (*that*) I can get. 得られるだけの援助はすべて受け入れるだろう)

④【ふつう単数の可算名詞につけて】【肯定文で】

a) どの…でも, だれでも

Choose *any beer* you like. 好きなビールをどれでも選んでくれ

語法

① 通例, 単数の可算名詞とともに用いるが, 不可算名詞や複数名詞と共に用いることもできる

② 3つ [3人] 以上のうちから任意に選択できる自由があるときに用いる。2つ [2人] の中から選択するときには *either* を用いる

Favorite

3 どんな…でも, あらゆる, すべて (◆主に肯定文で用いる; 通例強勢を置いて [éni] と発音する)

Please take *any book(s)* you like. どれでも好きな本をお取りください

Genius

3 /éni/ [通例肯定文で; 強勢をおいて; 通例~+単数名詞] どれも, 何も, だれも; 少しも 《◆日本語では訳さないことが多い》

b [関係詞節の先行詞を修飾] どんな…でも, できる限りの…

He will accept *any money* he can get. 彼は手に入るだけの金を受取るだろう

(下線は筆者による)

Lexis

2【肯定文で】どんな…でも, どれでも, だれでも

You may borrow *any book* you like. どれでも好きな本が借りられます

語法

(1) any は every と異なり、「どの…をとっても」という自由選択の意味を表す。したがって、You can read any book you like. は「好きな本ならどれでも（1冊）読んでよい」という意味になるが、You can read every book you like. は「好きな本はすべて読んでよい」という意味になる。

New Victory Anchor

3 [肯定文で] **どんな…でも**、どの…でも、だれでも（ふつう、単数名詞の前につける [éni] と強く発音する）

any one どれでも 1 つ

There are more pens. Take *any one* you like. ペンが何本かあります。どれでもいいから好きなものを1本持っていきなさい

N Proceed

2 [肯定文で] **どの…でも**、どんな…でも

Take *any amount* you like. いくらでも好きなだけ取りなさい

語法

(1) 数えられない名詞か数えられる名詞の単数を修飾するが、複数形を修飾することもある

Choose *any two books* you want to read. どれでもいいから読みたい本を2冊選びなさい（中略）

(3) 関係代名詞を伴う場合には which や who ではなく that を用いるのが普通

Any bus that stops here goes to the station. ここに止まるバスはどれも駅まで行きます

Progressive

4 ((肯定文)) **どんな…でも**、いかような…でも、あらゆる、みんな、すべて

Choose *any dress* you like. 好きなドレスをどれでも選びなさい

Buy *any book(s)* you want. 欲しい本があったら何でも買いなさい（▶ any book の場合は「どの本でもいいから1冊」という意味合いが強い）

Super Anchor

2 [éni] [肯定文で] **どんな…でも**、だれでも（▶通例単数名詞に付けるが、複数名詞に付

くこともある)

Borrow *any* book that interests you. あなたにとって興味ある本を借りなさい (▶先行詞に *any* が付くときは関係代名詞は *that*)

Wisdom

4 [éni] [主に肯定文, 時に否定文・疑問文・命令文で] (一般論・法則として) 《…から／…まで》どんな…でも, だれでも, 何でも, どれでも, いつでも, どこでも «from/to»

((1) 通例 [C] 名詞単数形, 時に [U] 名詞, [C] 名詞複数形の前で用いる; (2) 主語の位置では強勢がないこともある; (3) この *any* に対応する *some* の用法はない)

This movie is better *than any other* movie I've ever made. (一般的基準ではそれほどではないが) この映画は私が今までつくったどの映画よりもよいできだ「私がこれまでつくった中では」といった制限的意図を通例暗示する; ほぼ同意の This is the best movie (*that*) I've ever made. ではそのような制限はない)

Any doctor who did that should lose his license for good. そんなことをしたならどんな医者でも永久に免許を失うべきだ (*any* doctor を *his* で受けていることにも注意; *any* の後が単数形でも *their* で受けることがある)

I want to be in on *any* decisions that are taken concerning this. これに関してなされた決定はどんなものでも知っておきたい

I don't smoke. I don't drink. I'm perfect. Ask *any* man I ever dated. 私はタバコは吸わないし, 酒も飲みません, 私は完璧 (かんぺき) です。私がこれまでにデートした男性だれにでも聞いてみてください

Take *any* two [three] you like. 君の好きなものをどれでも 2 [3] つ選んでくれ (数詞の前でも用いられる)

語法

(2) 関係詞

コーパス 先行詞が物事で *any* を伴う場合, 後続する関係詞は *which* より *that* が好まれる。

I want to be in on *any* decisions that are taken concerning this. これに関してなされた決定はどんなものでも知っておきたい

(4) *not any ...* と *any ... not 1* の用法と同じく, “*any*+名...*not*”の語順では用いないが, 後に置かれた修飾語に制限を受けて *any* の不特定性が弱まっている場合は可能

Any politician who says such a thing can't be trusted. そんなことを言うような政治家は

信用できない

新英和中辞典

1 [肯定文で, 強調的に]

a [通例単数名詞の前に用いて] どんな…でも, どれでも…, だれ [何] でも…; 任意の…。

You may borrow *any* book(s) you like. 好きな本を借りてよい

c [[C] の名詞の複数形または [U] の名詞につけて] いくらでも, いくつでも

I'll loan you *any* books you need. 本は必要なだけ貸してあげる

上記の英英辞書, 英和辞書の「any N+関係詞節」に関する説明, 用例の考察から, 大きく分けると次の5つ意味分類が見出される。

(1) (ふつうに) どんな～でも?

I don't smoke. I don't drink. I'm perfect. Ask *any* man I ever dated. 私はタバコは吸わないし, 酒も飲みません, 私は完璧 (かんぺき) です。私がこれまでにデートした男性だれにでも聞いてみてください (Wisdom)

このような定義, 訳語が与えられていることがよくあるが, 実際にはこの用例は極めて稀なように思われる。たいていは, 下記の (2)～(5) に当てはまる。

上記の例は, 誰にでもいいから一人というわけではない, つまり次の (3) (i) ではない。またデートした男性すべてにというわけではない, つまり (2) ではない。

(2) every, all になる場合

Read *any* books you find on the subject. (RHD)

Any child who attempts to escape is beaten. (LDCE 3rd)

Any bus that stops here goes to the station. ここに止まるバスはどれも駅まで行きます (N Proceed)

(3) (i) 可算単数名詞なら「何でもいから1つ」となる場合

Take *any* book you like. (OALD 6th)

Choose *any* beer you like. 好きなビールをどれでも選んでくれ (E-Gate)

Anyの意味

(ii) 複数名詞, あるいは数詞がついた複数名詞の場合

Pick out *any six* you like. (RHD)

The offer was that you could have *any three* items of clothing you liked for £30. (CIDE)

Buy *any* books you want. 欲しい本があったら何でも買いなさい (Progressive)

I want to be in on *any* decisions that are taken concerning this. これに関してなされた決定はどんなものでも知っておきたい (Wisdom)

(4) できる限りの

They're going to need *any* help they can get. (LDCE 4th)

I will accept *any help* (that) I can get. 得られるだけの援助はすべて受け入れるだろう (E-Gate)

He will accept *any* money he can get. 彼は手に入るだけの金は受取るだろう (Genius)

Take *any* amount you like. いくらでも好きなだけ取りなさい (N Proceed)

I'll loan you *any* books you need. 本は必要なだけ貸してあげる (新英和中)

(5) どんな「悪い」ものでも (どんな「よい」ものでもというのも可能であろう)

Any advice (= Whatever advice) that you can give me would be greatly appreciated.)

上記 (2) に関して, every, all の意味はやはり any N とは意味合いが異なる。結果として every, all の意味になるものと考ええる。

上記 (4) に関して, LDCE 4th には “as much as possible” と説明されているが, 別に不可算名詞に対するものである必要はない。その区分のところにも挙げておいたように (I'll loan you *any* books you need. 新英和中), 可算名詞でもかまわない。

「any N + 関係詞節」について, やはりその特別さがあるとすれば, (4) 「できる限りの」の意味である。その他の意味分類については, 先に見た any N の意味の分類と異なる。 (4) の意味分類も「あえて言えば」というほどの特別さである。「できるだけ限りの」という意味になるのは, これまで見てきたのと同様やはり文脈から結果としてそうした意味になるだけのことであると思われる。

3.5 『弱い意味の any』と『強い意味の any』

3.5.1 COBUILD 2nd の any の定義

COBUILD 2nd

any

- 1 You use **any** in statements with negative meaning to indicate that no thing or person of a particular type exists, is present, or is involved in a situation.
- 2 You use **any** in questions and conditional clauses to ask whether there is some of a particular thing or some of a particular group of people, or to suggest that there might be.
- 3 You use **any** in positive statements when you are referring to someone or something of a particular kind that might exist, occur, or be involved in a situation, when their exact identity or nature is irrelevant [changed to not important in 5th].

(下線は筆者による)

上記は COBUILD 2nd の any の定義のみを引用している。例えば、1 の定義を見ると、any を使った単純な否定はこの説明によりよく表されているように思われる。単純な否定では、ここで “no matter what / which” のフレーズが使われていないようにそのような意味は強くない、あるいはほとんどないように思われる。このことは、疑問文、条件節での any の説明についても同じで、わりと単純な疑問、条件での any の意味はこのようなものであろう。では、そうすると、any の定義においてよく使われる “no matter what / which” 等の意味との関係、違いは何なのか？

COBUILD 2nd で定義される any の意味と “no matter what / which” 等の意味との関係を考えると、「弱い」any の意味（例：上記のような単純な否定）と「強い」any の意味（“no matter what / which” というような「どういふものであろうと」）があるのではないかと推測される。この区別は、発音されない限り、なかなか文脈だけでは捉えるのは難しいであろう。

3.5.2 非肯定文の any に関して no matter what / which 等の語義がどのような場合に使用されているのか？

文脈によりいずれの場合（弱い、強い any）もあるとは言え、肯定文の場合は文脈によらず（通常）強い no matter what / which の意味と思われる。したがって、no matter what / which などの記載があるからと言って、肯定か非肯定かを区別しておく必要がある。それでは、非肯定文の any の定義に no matter what / which 等のフレーズがどのように使われているのか、あ

Anyの意味

るいはどのような場合に使われているのであろうか。下記はその事情を英英辞書から探ってみた結果である。英和辞書は、説明、訳語だけでは *no matter what / which* の意味で使っているかどうかはわからない。したがって、英和辞書は調査対象外である。

- (1) 非肯定文に記載がある場合、どのような意味・用法に対して *no matter what / which* の定義が記載されているか？

非肯定文の定義に *no matter what / which* 等の記述がある辞書：

Webster's：否定の例 (he can't tolerate *any* criticism)

COD 8th：疑問・否定・条件の項目にあり、否定の例 (cannot find *any* answer), 条件の例 (if *any* books arrive), 疑問の例 (have you *any* sugar?)

Random House：疑問の例 (Have you *any* butter?)

OALD 6th：微妙 (*no matter what / which* のようなはっきりした記述がない), 疑問・否定について (条件については記載なし) (an amount or a number of sth., however large or small),

I didn't eat *any* meat.

I've got hardly *any* money.

He forbids *any* talking in class.

You can't go out without *any* shoes.

Are there *any* stamps in that drawer?

She asked if we had *any* questions⁷.

これらの辞書が *no matter what / which* などをどう扱っているか？ つまり、強い *any*, 弱い *any* についてはその区別があるのかどうか、あるとしてどちらの意味を記載しているつもりかははっきりしない。辞書編纂者（執筆者）にその区別がないかもしれない。

- (2) 肯定文での定義に *no matter what / which* 等の記述がある場合。この場合、(通常)「強い」*any* の用法であると思われるので特に問題とはならない。

肯定文の定義に *no matter what / which* 等の記述がある辞書：

Webster's, COD 8th, Random House, OALD 6th, LDCE 3rd (not LDCE 4th), CIDE (not important which), CALD (=CIDE)

(3) 不明の場合：New College AHD（例文なし）

上記の辞書の考察からわかることは、非肯定文のどの場合（否定、疑問、条件）でも *no matter what / which* 等を使った意味記述があるということである。COBUILD の非肯定文での定義と合わせると、非肯定文では「弱い *any*」の意味と「強い *any*」の意味の両方が存在すると思われる。

3.5.3 Sahlin の Any I, Any II, Any III との関係

Sahlin の Any III は、明らかに上記の肯定文の場合で、*no matter what / which* 等を意味特徴とする「強い *any*」に相当している。Sahlin (1979) は、Any III を次のように特徴づけている。

“primarily in surface structure assertive clauses” (p.22)

“It has been claimed that every and Any III are equivalent, at least in terms of truth values ..., as in *Any/Every boy can run a mile.* ... In other contexts, however, they are clearly different, notably in “choice contexts” (offers):

all of them

There're some apples in the basket. Take *every one of them* (if you like).”

any (one) of them (pp.116–117)

“Any III can be taken as inherently selective” (p.22),

“indicate “quality” (‘any (kind of) N’)” (p.22)

“any N, no matter what or which” (p.111)

“any N, of whatever quantity” (p.111)

“depreciative” and “appreciative” (p.22 & pp.119–122)

Sahlin の Any I, Any II は非肯定文での *any* の意味分類である。Any I は不定冠詞的 (indefinite non-assertive article) で弱い数量的意味 (a light quantitative sense) を特徴とし、Any II は数量詞 (quantifier) であり、Any I と比べてかなりの強い意味 (considerably more pronounced meaning) を持つ。そうすると、上記の非肯定文の「弱い意味の *any*」と「強い意味の *any*」はそれぞれ Sahlin の Any I, Any II に相当するのであろうか？

Any I = 『弱い意味の *any*』とすると、実は Any I にはその主な特徴の一つとして “any sort of” の意味が入っているため、そこにはいささか違和感がある。“Any sort of” (どんな種類で

あろうと)は、『弱い意味の any』とは折り合いが悪い感じがする。「どんな種類であろうと」という日本語の問題なのか?『弱い意味の any』が本当に意味が弱く、冠詞 a あるいはゼロ冠詞(複数, 不可算名詞)と同じとなると, any の存在意義がまったくなくなってしまう。そうすると, 冠詞あるいはゼロ冠詞との相違が Any I の主特徴の一つである “any sort of” の意味なのであろうか? 筆者は, “any sort of” が弱い意味の any を「冠詞 a あるいはゼロ冠詞」と区別する重要な意味特徴ではないかと考える。

Sahlin (1979) は, any (Any I) と『冠詞 a あるいはゼロ冠詞(可算複数, 不可算)』の相違は次のように記している。

“The major difference between them [Any I and the indefinite articles] is that a and the zero-form have an element of genericness, whereas *any* has not. In unequivocally generic cases like the following, then, *any* would obviously be out of the question: *You must not spoil a dog/Ø dogs.*”
p.91

Sahlin は, Any I との違いを示すために, 指示対象のない冠詞 a (non-referential a) の用例として次のものを挙げている (Sahlin 1979: 91):

... but kindness is not a basic human instinct.

I am not *a philosopher*.

Now, more than five years later, I cannot in any realistic sense be called *a trained soldier*.

If the old fool argues about the price, tell him that I shall order my husband not to treat him as *a patient* any longer.

上記の『冠詞 a, ゼロ冠詞』の特徴は「カテゴリ」を示す。それに対し, “any sort of” の特徴を持つ Any I の関係は, そのカテゴリの中のメンバーを指すのではないと思われる。Any I はメンバーを指すとは言え, やはり弱い意味であり, 強くどのメンバーであろうというような no matter what / which 等で表される意味を特徴としていない。図式化すると, 次のようになるであろう。

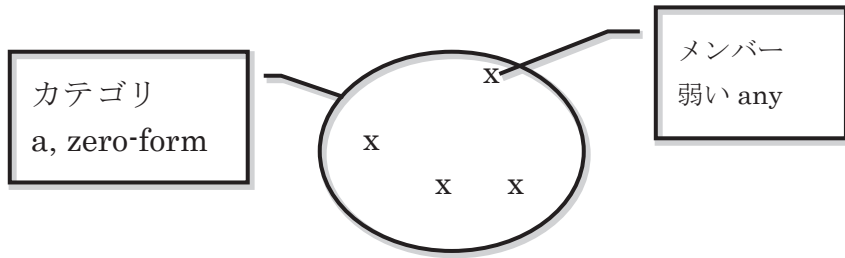


図1:「冠詞 a, ゼロ冠詞」と「弱い any」の関係

Sahlin (1979: 94) は、Any I と『冠詞 a, ゼロ冠詞』の違いについてさらに次のように述べている：

The main difference between Any I and the zero-form, however, is perhaps the quantitative one: while Any I has a lightly quantitative element, the zero-form has not ... Examples with *any* such as those below are more “concrete” than the corresponding examples with the zero-form and have such a light quantitative element.

so I don't think that any of them will have *any difficulties* in getting jobs in industry when they've finished.

The force of the author's analysis (if indeed it has *any force*) can be felt by the reader, I believe, only after ... p.94

(下線は筆者による)

Any I は弱い意味であるが、それでも個々のメンバーを指しそれが “concrete” と言うことであると思われる。また、上記の “quantitative” と言っているのはその個々について弱い数量的な意味を言っているのであろう。

Any はすべての場合に (Any II, III を含めて) 個々のメンバーに言及するのがその意味特徴と思われるので、上記をまとめると次の図のように表されるのではないと思われる。

Anyの意味

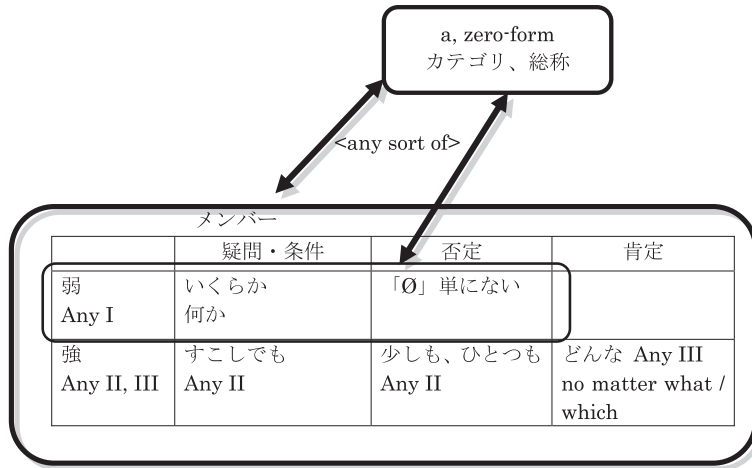


図2: 「弱い, 強い Any」, 「Any I, II, III」及び「冠詞 a, ゼロ冠詞」の関係

4. まとめ

英英辞書の考察からいくつか重要な発見があった。まず, 学習者用英語辞書にはない「相当, かなり」を意味する any, そして any の意味特徴を示すものとして重要と考えられるフレーズがあること (no matter which / what, no matter how much or how little, how many or what, regardless of quantity or number, in whatever quantity or number, great or small, the smallest quantity or number of)。

「肯定文, 条件節での any の類似性」, 「肯定文, 否定文での any の類似性」が示された。田中 (2007) で言及した疑問文と条件節の any の類似性と合わせると, 肯定・非肯定の any 全体に共通した意味を示唆しているように思われる。

その一方で, 肯定文の any に様々な意味があること, 「any N+関係詞節」にどのような「特殊な」意味があるのかも考察した。そして最後に「弱い意味, 強い意味の any」, 「弱い意味の any と冠詞 a, ゼロ冠詞の関係, 違い」, Sahlin (1979) の Any I, II, III との関係を考察し, それを図式化してまとめた。「弱い意味, 強い意味の any」とは, 肯定文に使用される any は「強い any」であり, 非肯定文で使用される any には疑問文, 条件節, 否定文それぞれに「弱い意味, 強い意味の any」があるということである。

今後の課題としては, 上記の英英辞書の考察から得た発見を母語話者にチェックして見ることが必要である⁸。その上で, 今回の発見をもとに any の直感的で統一的な説明が可能か試みるこ

とである。

後注

- 1 このような some と any の関係の捉え方, 記載の仕方は, 筆者も含め反対の立場を取るものもあるが (Bolinger 1977, ピーターセン 2004), ピーターセンが言うほど日本の学校文法独特の特徴ではない。some, any の詳細な研究をしている Sahlin (1979) もそのような解釈をしているし, 最近の認知言語学テキスト Radden & Dirven (2007) も「学校英文法」と同じ捉え方をしている。
- 2 学習用英英辞典も母語話者によって編纂されているので, いくら英語学習者を考慮に入れても, どうしてもなおざりになってしまうのかもしれない。
- 3 「Any N+関係詞節」はよく特別に項目を設けるかあるいは語法として特別に説明を与えられていたりする。だが, 「any+形容詞+N」とどう違うのか, 同じように思われる。「Any N+関係詞節」の関係詞節は形容詞と同じ機能と思われる。
- 4 同様の指摘は, Sahlin (1979: 22, 117) においてもなされている:

all of them

There're some apples in the basket. Take *every one of them* (if you like).

any (one) of them

- 5 「any N+関係詞節」では, Buy *any* books you want. (Progressive) というわかりやすい例がある。
- 6 Sahlin (1979) では, それぞれ “depreciative”, “appreciative” として表現している。
- 7 例文に挙がっている否定文 (You can't go out without *any* shoes.) 疑問文 (Are there *any* stamps in that drawer?), 間接疑問文 (She asked if we had *any* questions.) にはあまり強い any の意味が感じられない。弱い意味の any であろう。この3つの any N の N はすべて複数名詞であるがそれも関係しているように思われる。
- 8 否定文の any については, すでに2名のイギリス出身者に聞き取りを行っている。

参考文献

- 『E ゲイト英和辞典』, ベネッセ・コーポレーション, 2003.
 池内正幸, 『名詞句の限定表現』, 新英文法選書, 第6巻, 大修館, 1985.
 『ウイズダム英和辞典 第2版』, 三省堂, 2007.
 川瀬義清, 「Some と Any: Some に関わる問題を中心に」, 『西南学院大学英語英文論文集』, 第29巻, 1989, pp.13-27.
 『ジーニアス英和辞典 改訂版』, 大修館, 1993.
 『新英和中辞典 第6版』, 研究社, 1994.
 『スーパー・アンカー英和辞典 第3版』, 学習研究社, 2003.
 田中 実, 「Any の意味記述の困難さ」, 『川村学園女子大学研究紀要』, 第18巻, 第3号, 2007, pp.13-35.

Any の意味

- 『ニューヴィクトリーアンカー英和辞典 第2版』, 学習研究社, 2005.
『ニュープロシード英和辞典』, ベネッセ・コーポレーション, 1994.
ピーターセン, マーク, 『ニホン語, 話せますか?』, 新潮社, 2004
『フェイバリット英和辞典 第3版』, 東京書籍, 2005.
『プログレッシブ英和中辞典 第2版』, 小学館, 1987.
『リーダーズ英和辞典 第2版』, 研究社, 1999
『レキシス英和辞典』, 旺文社, 2003.

- The American Heritage Dictionary of the English Language, Fourth Edition*, the Houghton Mifflin Company, 2000.
Bolinger, D. *Meaning and Form*, Longman 1977.
Cambridge International Dictionary of English, Cambridge University Press (CIDE) 1995.
Collins COBUILD English Dictionary, 2nd, HarperCollins Publishers, 1995.
コリンズコウビルド英語辞典 *Collins COBUILD English Language Dictionary*, 秀文インターナショナル, 1987.
The Concise Oxford Dictionary of Current English, Eighth Edition, Oxford University Press, 1990.
Hirtle, W. H. "Some and any: Exploring the system", *Linguistics: An Interdisciplinary Journal of the Language Sciences*, Vol. 26 no. 3, 1988, pp.443-477.
Longman Dictionary of Contemporary English, Third Edition with New Words supplement, Pearson Education Limited, 2001.
Longman Dictionary of Contemporary English, 4th Ed. Pearson Education Limited, 2003
New College Edition The American Heritage Dictionary of the English Language, Houghton Mifflin Company, 1969.
Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English, Sixth Edition, Oxford University Press, 2000.
Radden, Gunter & Dirven, Rene. *Cognitive English Grammar*, John Benjamins 2007.
The Random House Dictionary of the English Language, Random House, Inc., 1973.
Sahlin, E. *Some and Any in Spoken and Written English*, Uppsala, Almqvist & Wiksell International, 1979.
Tanaka, Minoru, "Reconsideration of some and any", *The Journal of Kawamura Gakuen Woman's University*, Vol.19, No.2, 2008, pp.83-95.
Webster's New World College Dictionary Fourth Edition, Macmillan · USA, 1999.